平成30年度　全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立第四中学校）

平成30年9月25日

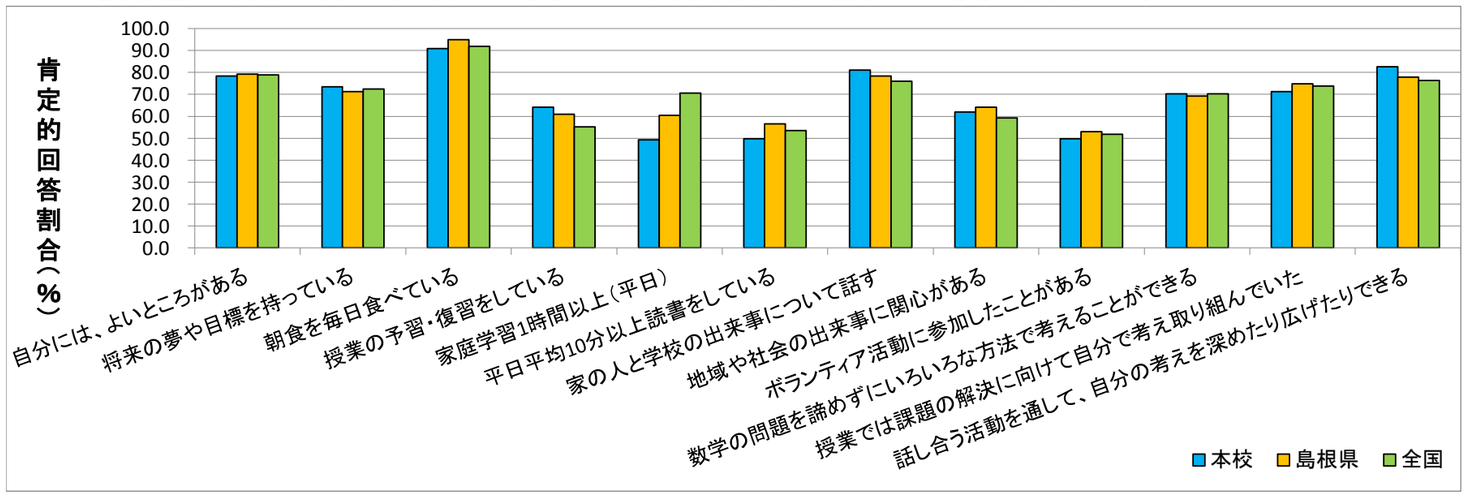
（１）学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題（○：成果，●：課題）	対　策
国語	A（基礎）	○「読むこと」に関する問題の正答率は高い。 ●「言語に関する知識理解」に課題がある。	・古典の学習では歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことがスムーズにできるよう繰り返し練習させる。 ・現代文中の語句についてその意味を理解し、具体的な例文が書けるよう指導する。
	B（活用）	○話し合い活動における、質問内容についてはよく理解している。 ●話し合い活動における司会に関する知識は低い。	・話し合い活動を通して、話し合いの進め方や司会の役割について考えたり、体験させたりする機会をもつ。
数学	A（基礎）	○　数と式，図形，資料の整理に関する正答率が高い。 ●　関数についての正答率が低い。	・変化の割合、ｘの増加量，ｙの増加量に関する理解度を上げる。
	B（活用）	○　短答式の問題の正答率が高い。 ●　記述式の問題の正答率が低い。	・課題の解決に至る過程を書かせるようにする。
理科		○生物的領域の正答率が高い。 ●記述式の問題の正答率が低く、無回答率も高い。	・活用に関する学習も時間を確保し、話し合いや探求活動を多く取り入れる。

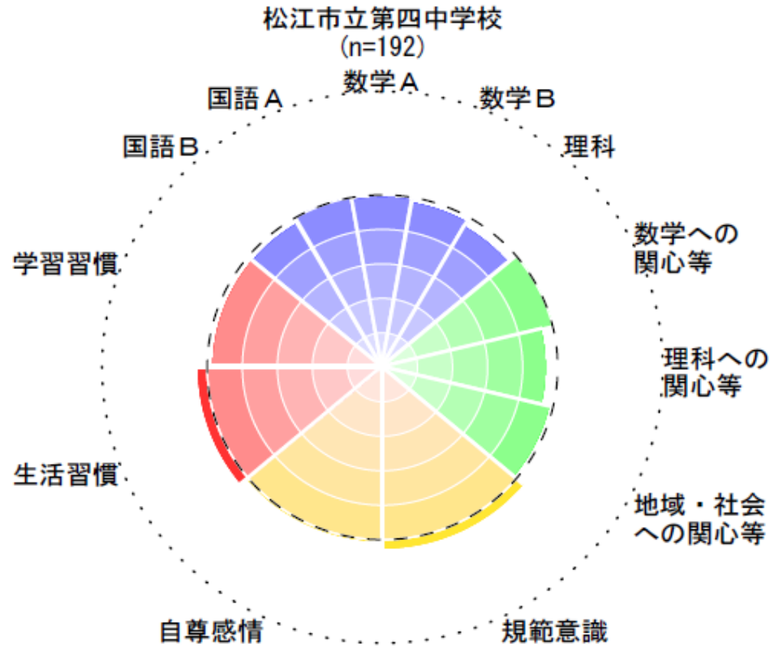
（２）生活意識調査から見られた傾向

成果と課題（○：成果，●：課題）	対　策
○話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができるようになっており、教科の課題に取り組む際に簡単に諦めず、自らまたは他者と協力しながら、別の方法を模索していく力が比較的育っている。 ●その反面、課題解決に向けて、自分で考え取り組もうとする姿勢は県や全国に比べて低い。	・学習内容の定着のために、授業の終わりや次時の始めに振り返りを行い、自己解決の手立てとする。 ・話し合いを通して、他者の意見を参考にしながら共に課題を解決し、最後は個人で課題を解決できる力をつけていくようにする。

（３）意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



（４）学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



（５）その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・家庭学習への取組がいい加減な生徒が少なくないことから、通常の自学ノートに加え、数学と英語の反復学習プリントを課題として提供し、学習内容の定着を図る。
・自分のよいところを知っている生徒が県や全国や県と比べて少ない。学活で自分や互いのよさを見つける活動を行ったり、地域のボランティア活動に参加したりして、自己肯定感を育む手立てとする。

【参考】

○平均正答率　（%）

		本　校	松江市	島根県	全国
国語	A	76	76	76	76.1
	B	60	61	61	61.2
数学	A	65	65	64	66.1
	B	45	46	45	46.9
理科		64	65	66	66.1

受検者数　192 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受験者数をもって表示しています。